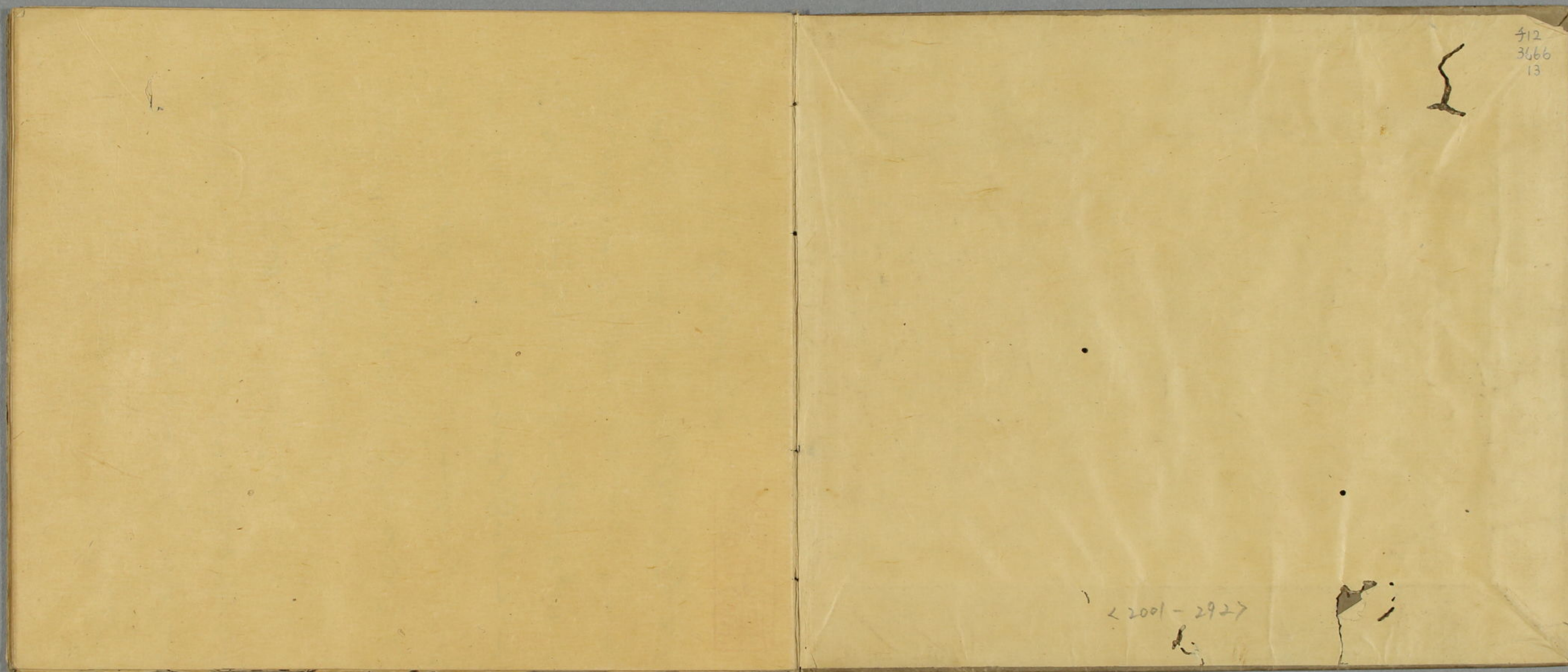


花傳書
乙

特 別
F12
3666
13





412
3666
13

<2001-292>





調子次方のまじまじ調子とら
 いた地初らきしよあはうい何ら
 調子よまほしあいなしらあは
 地まいこふあはららら調子まはら
 いたすしうあはあはあは
 あららららららららららら
 得へー地まいこふあはららら
 たららららららららららら

五調子乃次方抄

一 双調子といひあてらるる調子なるは
 則ち二月廿四日調子よまは 方か
 よららららららららららら 八廿五腕小

とほけの肝乃る也 其多ありと
味いすきありなり 本性とこれ
を定んば服ふ通ふことあり也

一黄鐘也云ハ 其二月廿日調子

方くくとほけの南なり 五臓ふ
九寸ハ心の氣なりし 其多あり
ありとほけあり 火性と是を
ささめ舌通調子なり

一平調子也云ハ 秋三月廿日調子也

方かくふとほけの西也 五臓ふ
九寸ハ肺の氣也 其多あり
味わくこと也 金性と是を定

いんふふ通調子なり

一盤渉也云ハ 冬三月廿日調子也

方かくふとほけの北也 五臓ふ
九寸ハ腎の氣なり 其多あり
味を鹹也 水性と是を定め再
通調子なり

一蕤也云ハ 玉用廿日調子なり

方かくふとほけの中央なり 五臓ふ
九寸ハ脾の氣也 其多あり
味いあり 土性也 是を定むと
ふ通調子也 此土用乃調子なり
て多ありとほけの辰

ありし一毎に此をせしむるにりて
 ありしことなり月を去用と同一
 調子也又土用乃月日の調子あり
 ころありし

- 一 一弦よりわらふ、 新吟なり
 - 一 平調よりわらふ、 指絶下之調也
 - 一 双調よりわらふ、 多し清なりし
 - 一 黄鐘よりわらふ、 寧鐘下なり也
 - 一 盤渉よりわらふ、 非山上之調
- 十二天此調子乃中
- 一 一弦十一 新吟十二 平調正 指絶二
 - 下之調三 双調四 多し清五 黄鐘六

寧鐘七 盤渉八 非仙九 上之調十

此調子のり

- 子 呂 盤渉 陽冬 定 呂律
- 丑 非仙 陰
- 刀 呂律 寧鐘陽
- 卯 呂律 双調陰去を定
- 辰 律 鳥鐘陽
- 巳 律 上之調陰
- 午 律 黄鐘陽其定
- 未 呂 一弦調陰土用定
- 申 律呂 新吟陽
- 酉 律呂 平調陰秋定

戌 吕
 亥 吕
 下五阳
 揣绝阴

一断 平 勝 下 双 潤 亥 寧 臨 上

平潤 秋也 白以加

戌 申 酉 戌 下 雙 潤

赤 未 亥 揣 絕 醜 之 一

卷 午 亥 臨 南 中 央 一 越 土 用 小 撮 涉 子 甲 夜

星也

白 甲 巳 丑 補 仙

墓 辰 东 卯 刀 寧 臨

上 五 双 潤 春 也 青 酸 目 也

右 方 加 五 潤 子 也 此

甘 辛 酸 苦 鹹 五味 五方 五時

五字子六也此

- 一 雨ハ 双烟 一 波ハ 盤涉
- 一 川ハ 盤涉 一 竹ハ 盤涉
- 一 木ハ 双烟 一 石ハ 盤涉
- 一 鳥ハ 盤涉 一 陸ハ 黄澆
- 一 雷電ハ 盤涉 一 魚ハ 平烟
- 一 風ハ 平烟 一 土ハ 盤烟
- 一 双烟ハ 殺心の 烟子也
- 一 黄澆ハ 修行の 烟子也
- 一 平烟ハ 菩提の 烟子也
- 一 盤涉ハ 涅槃の 烟子也

一 戒 方便の 烟子也

一 五烟子をと 宮 高 角 微 非 五音

引合す歌也

- 一 宮ハ 五音 小あてていさをとほし
- 一 角ハ 小あてていさをとほし
- 一 高ハ 小あてていさをとほし
- 一 微ハ 小あてていさをとほし
- 一 非ハ 小あてていさをとほし
- 一 五音ハ 小あてていさをとほし

長ふ二毛りゆふなわ

一 微音ふしこちをあつて調子よあ
ハ盤なわをふりちゆふや

一 羽ハ右れんこしゆひふてきんす
付しるあつて新しきハ黄鐘や
菱みりちゆふなわ

ナ二調子と吟す新根れん

一 一越より二調子下を吟すさふり
たゆふまといしふあわはゆあつと

一 一越より二毛りゆふあつて調子
あつて吟し次あつてふ何しけつ
あつて其高調子と一越平橋下

双鳥黄盤非上やわね

一 祝云此個子乃也

呂ハ志んきんよわいしきんこしや
せふと云 律ハうまいすわひこ
つりこさちあつて是ハ志んきんよわい
かな

一 双調ハ黄鐘一越ハ二調子ハ呂ハ

音ハ志んきんよわいしきんこしや
ゆるふなわ

一 双調上ハ調子を父と下ハ調子を
母と次天地陰陽和合ハ調子
と是を云双調ハなつていし

のわふとよじせわつたゆふ諸
成龍たてうしとまふたを

五音相通抄

あいうへを
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへか
まみむめも
やいゆえよ

らりるれろ
わあうゑわ

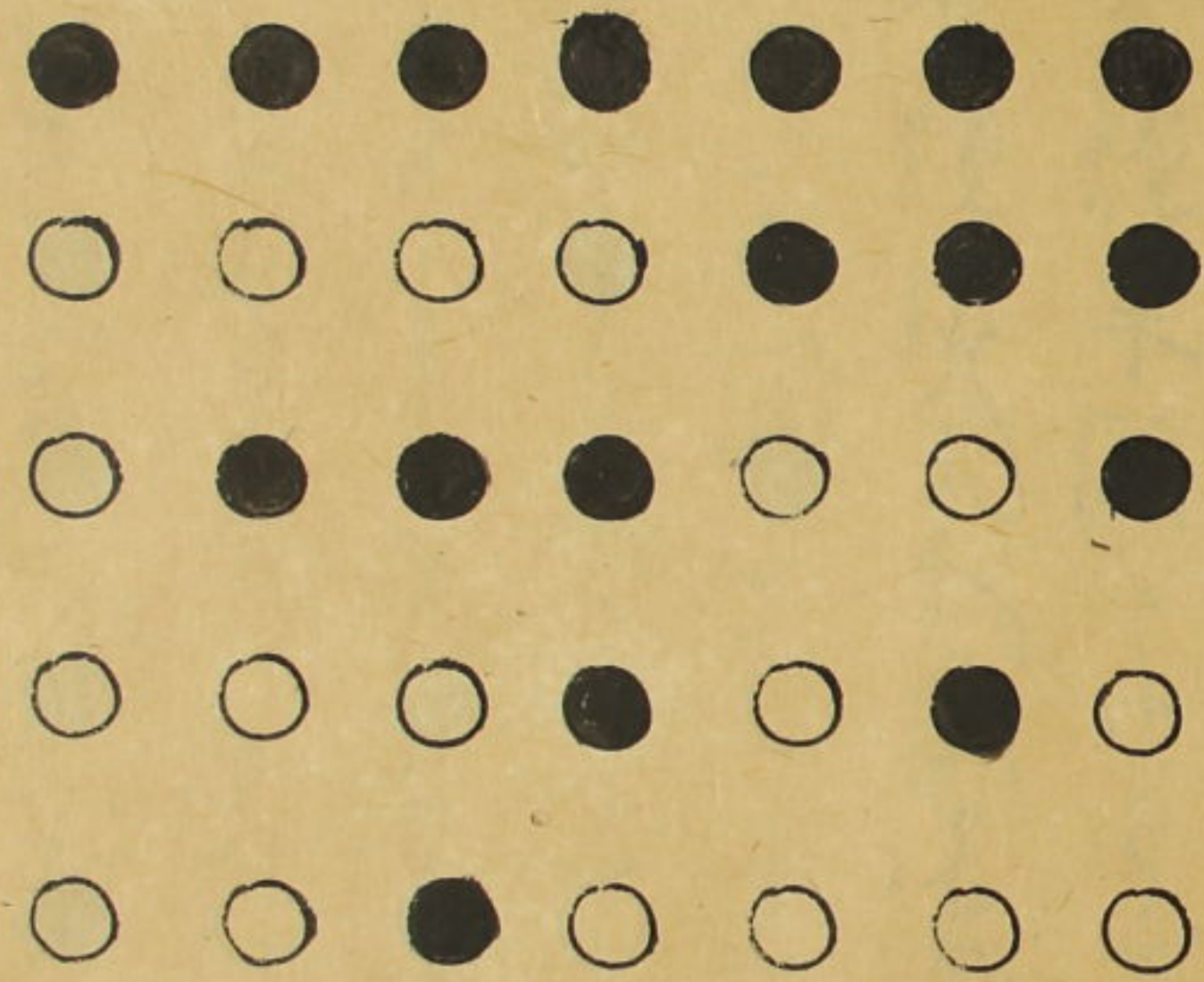
一喉四

あいうゑを
かきくけこ
やいゆえよ

一唇

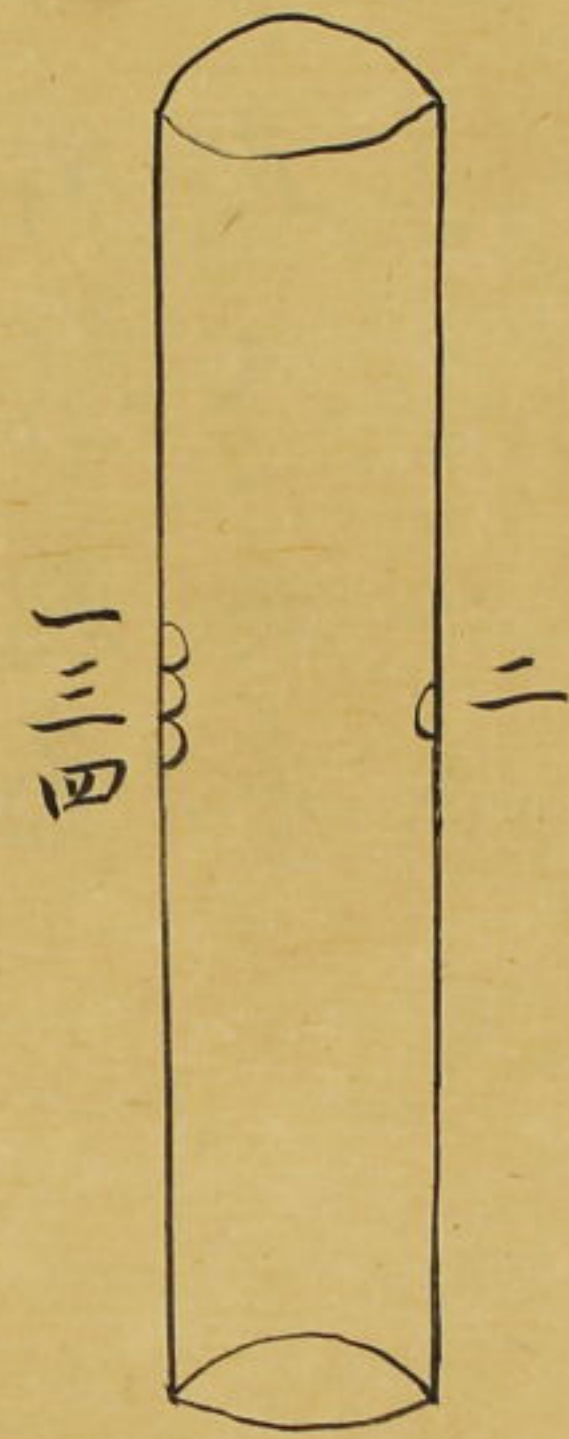
はひふへか
まみむめも
わあうゑわ

一越 一断 一平 一勝 一下 一双 一鳧



三四三断四穴空平
 一下二双一二鳧三黄一二齋
 四盤一补仙二四上

一四穴吹板此本



一舌
 さしすせろ
 たちつてと
 なにぬねの
 らりるれろ

一 黄	○	●	●	●	●	●
一 鸞	○	○	○	○	○	○
一 盤	○	○	●	●	●	●
一 神	○	●	●	●	●	○
一 上	○	●	●	○	○	○

一 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄
 一 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞
 一 盤 盤 盤 盤 盤 盤 盤
 一 神 神 神 神 神 神 神
 一 上 上 上 上 上 上 上
 一 黄 黄 黄 黄 黄 黄 黄
 一 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞 鸞
 一 盤 盤 盤 盤 盤 盤 盤
 一 神 神 神 神 神 神 神
 一 上 上 上 上 上 上 上

さうとならう。是ハ黄黄黄黄黄黄黄
 此お慈の潤子なること。まをす時の
 潤子と云。四季より潤子土用の潤子
 右のこわあひは。何れもあつと

一 春ハ 双潤

一 夏ハ 黄鸞

一 秋ハ 平陸はさるる。平潤ハ
 せらとしくさ潤子なるま。平潤
 よわらうし。てやうて双潤ハ
 一 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ
 子なるハ。秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ 秋ハ

一 五濁子三三三すまね根のま右のま
みひとさうゆひさう人すう何(鼻)
れまの貴後なりわ

一 三三三すりひひまの平濁也

一 ひひひおれまの盤血跡なりを

一 再ひひまは一載るつと常にまれ

つ静の双濁なり大方おれ

一 三三三三三此濁子双濁なりとむり

ハハハハハ三三をりりひつまを盤血

とあ根なまこいらひひひふらを

まらりつらなわつ本此居奥ふ

似らわして双濁ふまにじ此文

双濁の本姓なりとわつゆひひひ

てりるの本をまひひひあますれら

本姓のお然此濁子なり又いらく

双濁のままろ濁子やままの濁子の

こゝまなまの家のこゝあなを

わひひひひひひ濁子なりわ

一 ねま此濁子のままの濁子一ス

るのなるまののののののの

ままのまのまのまのまのまの

は一申比ふわちと濁子よあを

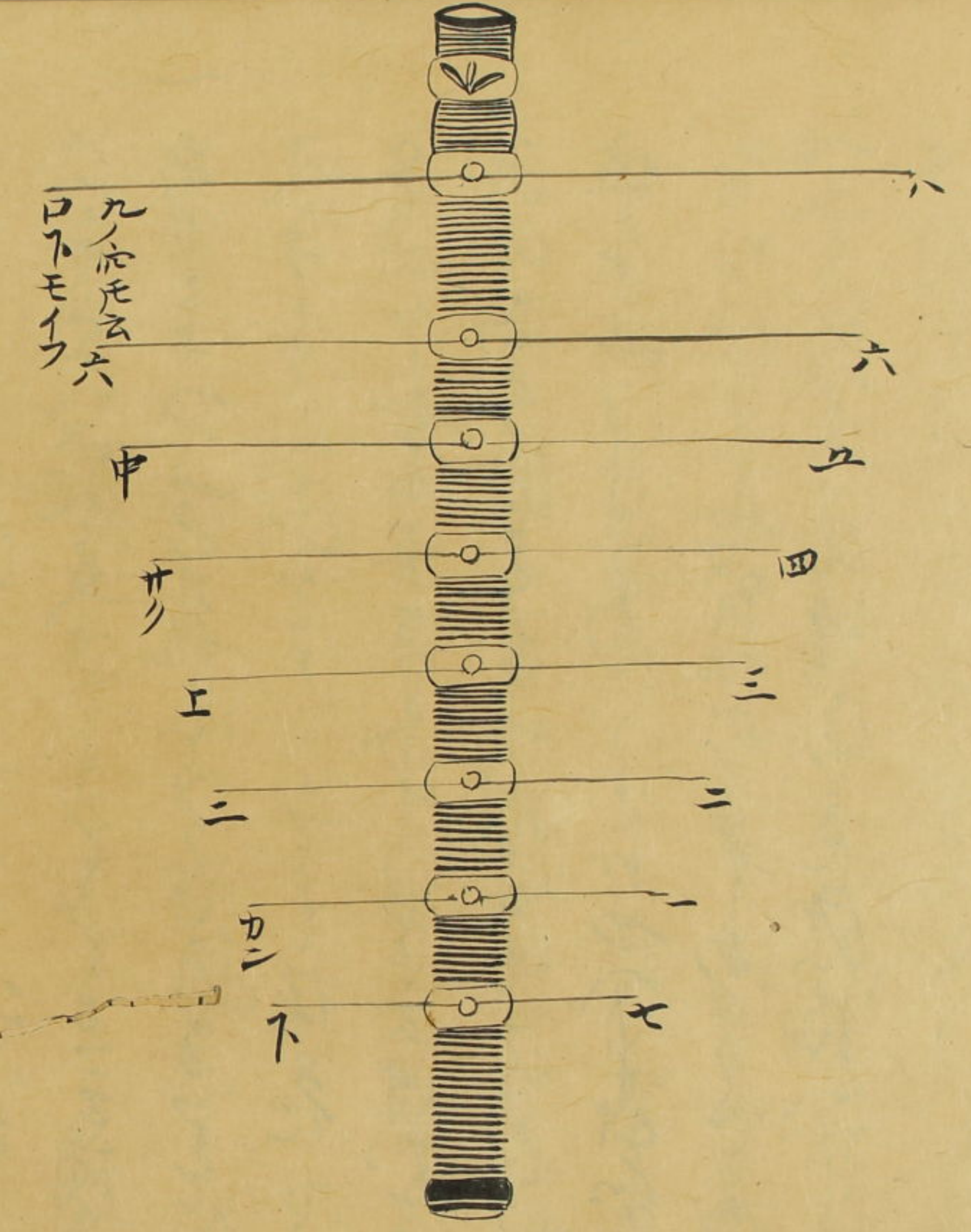
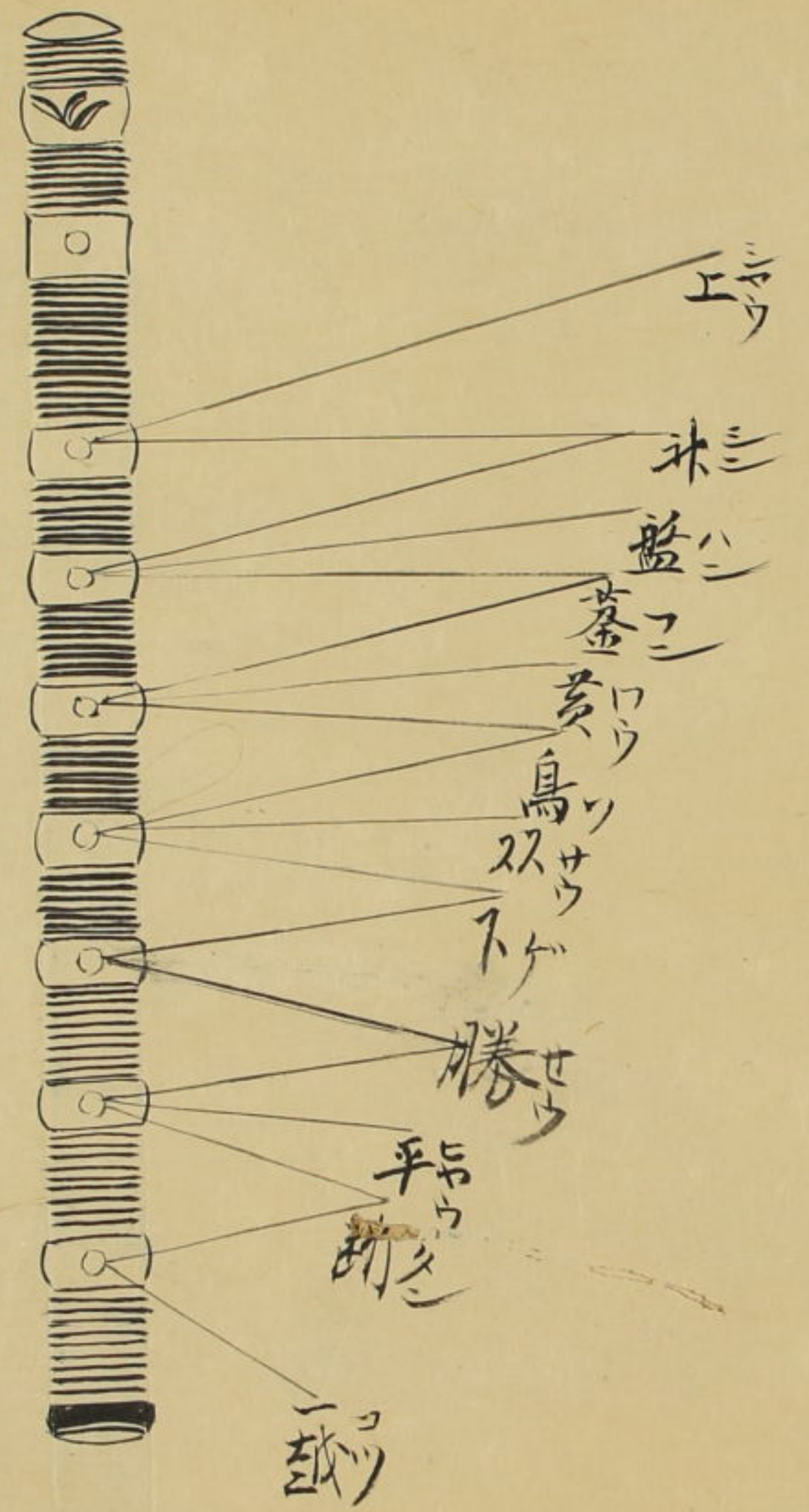
てかちち又あひひひひひひひ

濁子よあまのまのまのまの

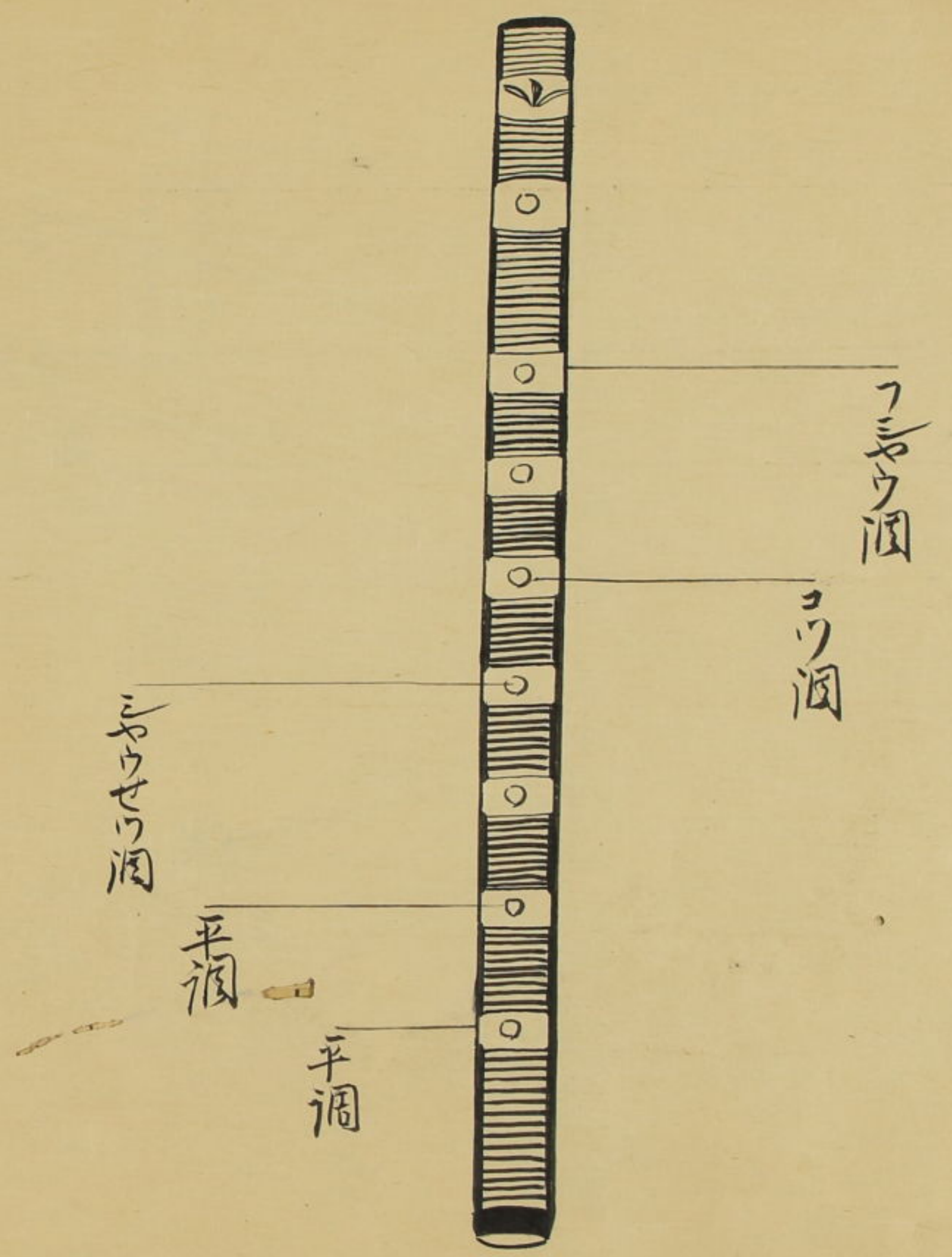
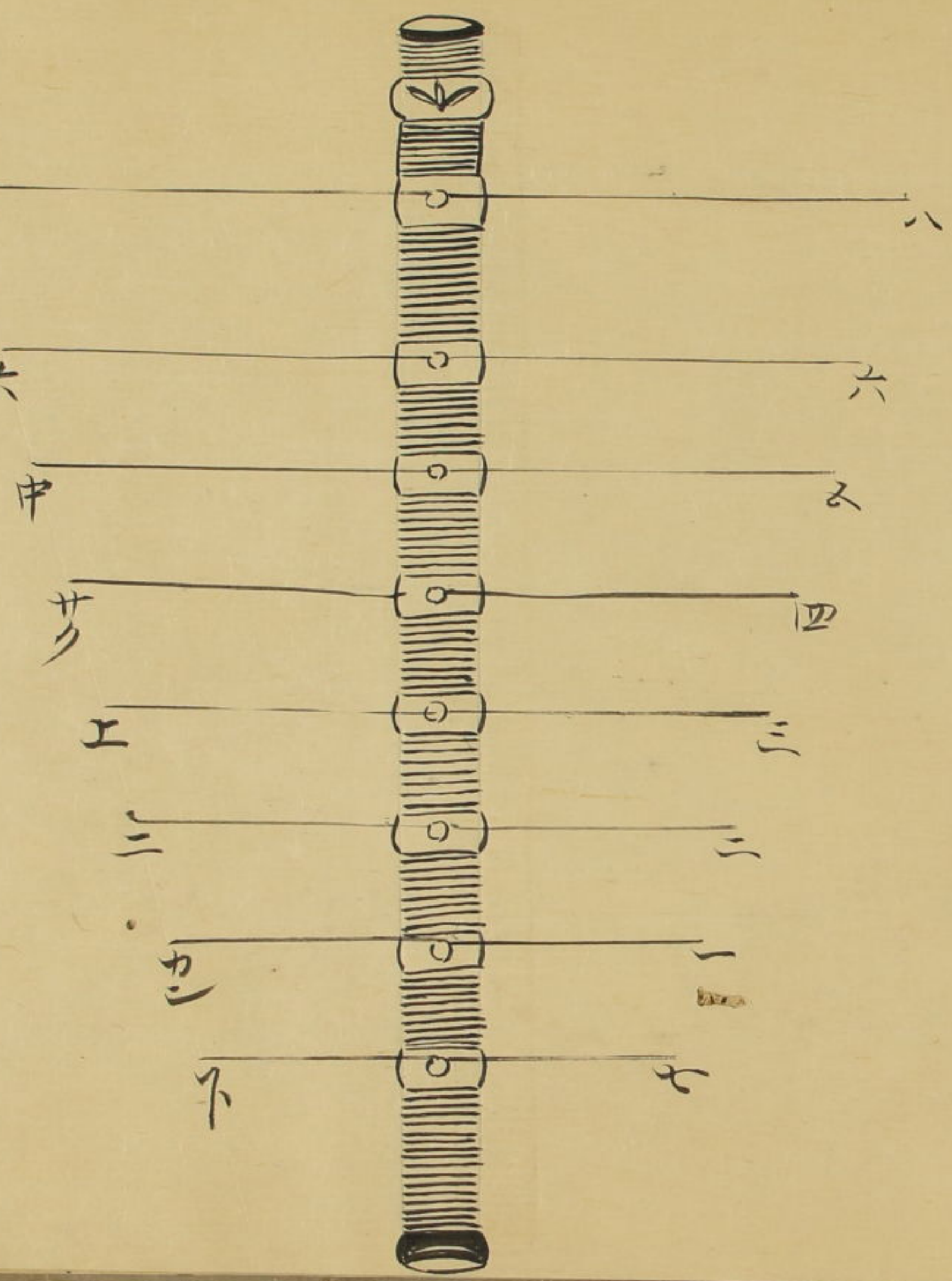
一 八やうらみあついで行のちまたの
あひらけのる成寺のあひらけ
かきみたらしいいふもしくさう
しなふらひてよしいふも
あつてさうあひらけな
うらひの個子よあ一個子さう
あひらけあひらけのうらひのあひ
しらひのうら

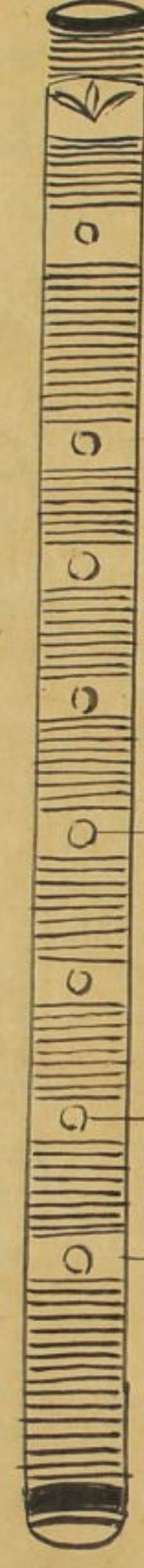
一 つかまかんさんあに松風うらひの
たらひの個子たささとさうら
なるとさうらひのうらひを
かねのたらひあひらけはさうら

一 西行様ふあけひらけさうらとさう
さうらうらひうらひとさうら
こまらけいんさうらうらひとさう
あひらけの桜花さうらうらひ
あひらけさうらうらひとさう
さうらうらひとさうらうらひ
ひのさうらうらひの個子とさう
位をさうらうらひとさうら
さうらうらひとさうらうらひ
さうらうらひとさうらうらひ
さうらうらひとさうらうらひ

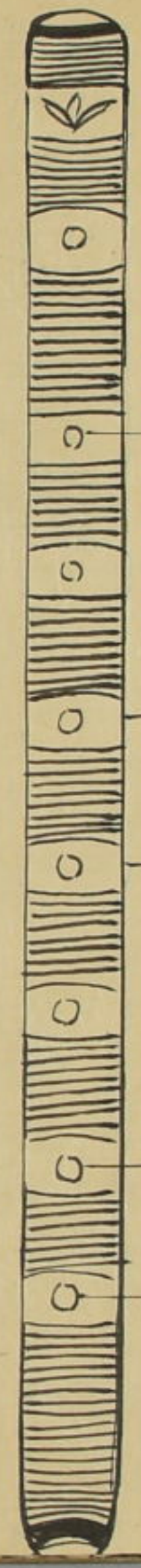


九ノ元氏云
口トモイフ

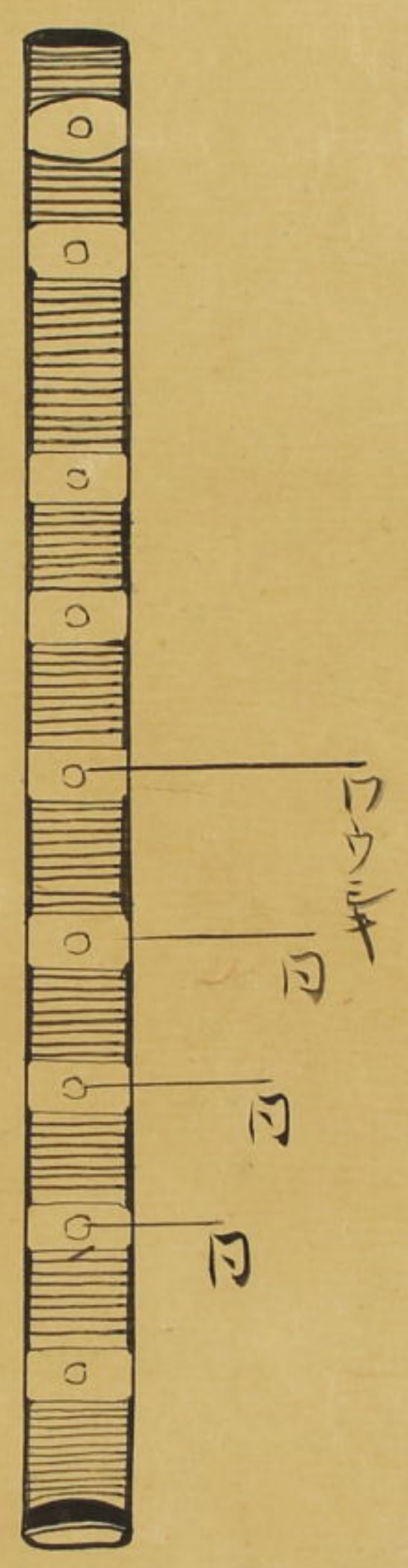
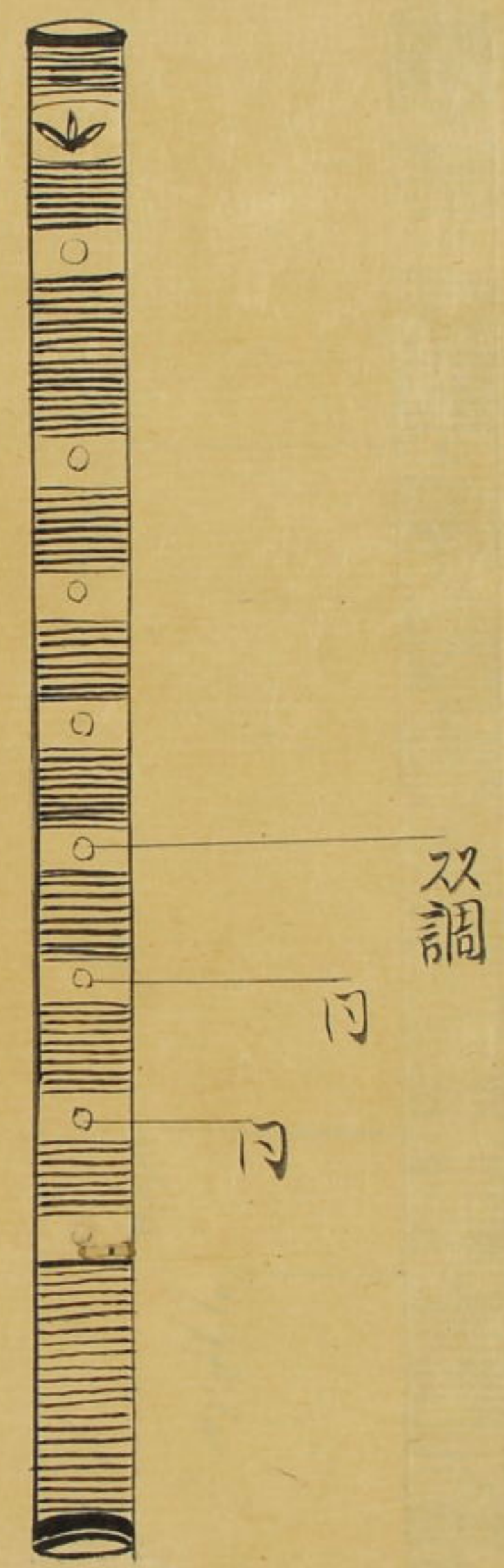
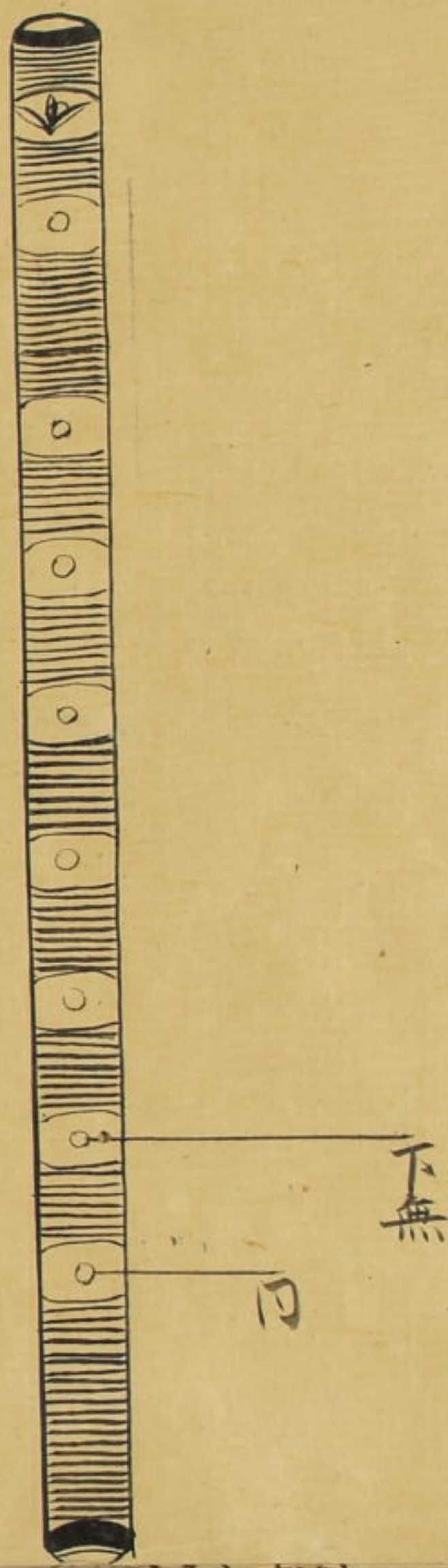




Handwritten labels in Arabic script, including 'ساق' (saq) and 'شاه' (shah), connected to the diagram by lines.



Handwritten labels in Arabic script, including 'ساق' (saq) and 'شاه' (shah), connected to the diagram by lines.



右笛の圖おかくかくのこゝを
 をとまひて十二調子吹かしてうら
 音呂律を引あつて一とるをうら
 笛ふのこゝをさかあはかりて
 せうこゝをさかあはかりてせ
 よゝゝは竹葉なる也

一 清茶のこゝを——小をぬかして
 みんか——をいひてなとす
 りか——みは双個入舞ふはなと
 りゝねたもゝしるわ
 一 吹く——やそを竹とらふはるわ

吾等のなつ子のあはなひは
ついでまゝの吾等をまゝに
おぬのちの秘書ふんを
ひくまゝ家ふんを
あはなひ
あはなひ

一 個子の双個下流の盤渉しらの個
子なまきいふくとも同く
をを

一 けさのちよわたまへらひ
個子れまわらひ
個子をいぢ
なわたまのめわら

ふれおをふん
たぐおを
さつとら
潤子のな
ふいさ
らふし
よく
たま
れち
らふ

